

名張市水道事業経営戦略について

1. 計画策定の趣旨及び背景

現在の水道事業を取り巻く環境は、依然厳しく、給水人口の減少と節水機器の普及などによる給水量の減少傾向は継続し、それに伴う給水収益の減少が事業経営に及ぼす影響が大きくなっています。一方で、異常気象の増加による風水害対応、また、老朽化した水道施設の更新には多大な整備費用が必要となっています。

そこで、本市の水道事業が将来にわたって、安定的に継続していくため、事業経営に必要な財源を確保し、中長期的な視点に立った経営の基本計画となる名張市水道事業経営戦略を策定しました。

2. 計画の位置付け

本市の総合計画である「新・理想郷プラン」及び「第2次名張市水道ビジョン」等の上位計画との整合を図りつつ、今後の10年間における経営の基本的な考え方、投資試算や財源試算、収支ギャップの解消など経営健全化に向けた取組を定めています。

3. 計画期間

令和3年度から令和12年度までの10年間とします。

4. 計画の内容

(1) 現状の問題と課題

本市の大きな課題として、法定耐用年数を超過した水道管路を多く抱え、水道水の安定供給のため、積極的な老朽化対策への取組が不可欠であり、これらの事業を推進するために、莫大な投資と人的資源が必要です。

財政収支では、水需要の減少による給水収益の減少、管路を中心とした更新事業費の増加に伴い、減価償却費や企業債償還利子の増大等により、単年度の赤字が継続し、補填財源の不足が生じる見通しです。

また、水道水を作るために必要な経費（給水原価）が水道水を使用することで得られる収入（供給単価）を上回っており、原価割れの状況が継続していることから、健全な経営に向けた取組が必要です。

(2) 計画の基本方針

安全で信頼される水の安定供給を継続するために必要な設備、管路等の更新が不可欠である中で、施設等のダウンサイジングや統廃合、長寿命化された製品の採用及び維持管理の強化などによる延命化の取組により、投資額の平準化や縮減を図り、中長期的な視点での効率的・効果的な投資を基本方針として、投資計画を検討します。

投資計画における投資額の増加や水需要の減少に伴う給水収益の減少が見込まれる中で、水道事業の持続が可能となるよう能率的な経営の下における適正な原価を独立採算の原則により賄うことを基本方針として、水道料金の適正化、企業債の発行、国・県の補助金の確保による財政計画を検討します。

なお、経営に関する重要な事項については、名張市上下水道事業運営審議会に諮りながら、継続して検討を行います。

計画期間のうち、前期（令和3年度から令和7年度までの5年間）は、収益的収支の赤字の改善と増加する投資への財源の確保を目指す「経営基盤強化期間」、後期（令和8年度から令和12年度までの5年間）は、前半5年間の事業進捗を踏まえた投資の見直しとともに経営基盤強化の効果の持続を目指す「経営の合理化期間」と位置付け、毎年度、投資・財政計画の進捗管理を行い、必要に応じ評価・見直しを行っていきます。